

2月12日(日)

第2会場

10:00~11:30

国際会議室

植込みデバイス患者の感染と管理

【概要】

近年、徐脈性不整脈に対するペースメーカーのみならず、致死性心室性不整脈のICD、心不全治療のCRTなど、心臓植込み型デバイスの植込み件数は増加の一途であるが、その一方でデバイス感染は大きな問題になりつつある。最近のガイドラインでは、菌血症や感染性心内膜炎を併発していないポケット感染に対してもリードを含む全てのシステム除去が推奨されているにもかかわらず、日本ではリード抜去ツールの導入が遅れていたために姑息的な手術か侵襲が大きい開心術かを選択しなければならない時代が続いていた。しかし、今年度にはリード抜去用エキシマレーザーシース、ロッキングスタイレットが保険償還され、我が国でも経皮的リード抜去手術の土壌が整備され始めている。

本セッションでは、デバイス感染の発生状況、抗生剤治療、全デバイス摘出術（経皮的、外科的）、再植込みのタイミング、感染の予防法などについて、内科医、外科医、感染症専門家の立場から幅広い視野で考えてみたい。

〔座長〕 庄田 守男 東京女子医科大学循環器内科
今井 克彦 広島大学病院心臓血管外科

1. 植込みデバイスリード抜去の頻度、適応と実際

小倉記念病院循環器内科 ○合屋 雅彦

2. 経皮的リード抜去の実際

国立循環器病研究センター心臓血管内科 ○岡村 英夫

3. 外科医から見たデバイス感染管理

広島大学病院心臓血管外科 ○今井 克彦

4. 植込みデバイス関連感染症の病態、診断と治療について —感染症の立場から—

順天堂大学医学部感染制御科学・細菌学・総合診療科学 ○菊池 賢